

令和5年度 学校自己評価システムシート (東邦音楽大学附属東邦第二高等学校)

目指す学校像	・音楽芸術の一貫教育を通じ、情操豊かな人格の形成を目指す
本年度の重点目標	1.基礎学力の定着と充実を図る(専攻実技・音楽教科・普通教科の学びを通して「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」を養う)→主体的・対話的で深い学びへと繋げる 2.基礎的・生活習慣の確立(挨拶礼法、授業規律の確立、思いやりのある思いやりのある人格形成) 3.高大連携接続教育(音楽を通して一貫教育)の充実

学校関係者評価は、組織別の学校関係者評価と、学校自己評価を併せて実施し7/17日終了。(実施日令和6年3月17日)
学校関係者：4名

領域	評価項目	年度目標		年度評価			
		現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
学習指導	○新学習指導要領に基づき、『知識・技能』の指導では、基礎学力の定着と充実を図る。 ①専攻実技・音楽教科・普通教科の学習を進めて行く中で、必要不可欠な基礎的な理論と基本的なスキルの習得には個々の生徒の状況を踏まえた指導を行う。 ②音楽科目を核とした、教科等横断的な学習を通して思考力・判断力・表現力の育成を図る。特に、新指導要領での新設科目についてはその指導目標を理解し、指導計画を確立していく。 ○思考力・判断力・表現力等の育成(対話的で深い学びの実現に向けた授業改善) ①専攻実技、合奏・合唱の授業を通して豊かな感性の育成と協働的な学びを習得する。 ②教育課程を通して、道徳教育を推進し他者とともによきよき人間性を涵養する。 ○学びに向かい合う力、人間性の涵養(各教科・科目の特性を生かした形で、各授業に於いて『主体的な学び』を実施する) 同時に、各授業での生徒間の学習習慣の育成(礼儀・挨拶・授業規律)の確立を図る。思いやりのある思いやりのある人格形成	・音楽の基礎科目である『楽典』『聴音』『新曲視唱』の力は、音楽の学びに於いて必要不可欠なもので、その力の定着と充実には専攻実技の学びを大きく影響を与えるものである。行く中で各専門実技の学びは、入試科目として設定せず入学後基本的な事柄から指導していく事を指導方針としている。しかし、実際、指導をしていく過程で、次第に学力差が顕著になっていく現状が見受けられる。各専攻実技の基本的な演奏スキルと定着と表現力をより円滑に育成していくために、音楽の基礎である『楽典』・『調音』・『新曲視唱』の学力を如何にして向上させていくかが、大きな課題となる。 新学習指導要領の施行に伴い編成した新教育課程の教科・科目の普通科目、音楽科目の指導内容に関して共通理解を図った。 観点別評価に関しては、①知識・技能 ②思考・表現・判断 ③主体的に学習に取り組む態度の中で、③が主体的に学習に取り組む態度を評価するにあたって、『粘り強い学習への取り組み』と『自ら学習の調整』をして、その結果、しっかりと学習し、成果に結びつけたかを評価すること、各教科・科目の特性に合わせて評価していくこと、各担当教員が検討を進めていく事とする。	・『楽典』・『聴音』・『新曲視唱』・『コルトレーン』の学力向上の為に、各指導担当者と連携をもち①①生徒が苦手としている要素には何が有るのか、②何が共通している傾向がないかをどうか調べる、③①②の結果として、生徒が効果的に基礎スキルを身に付け、さらにその力を充実させていくことを目標に指導を進めていく事とする。特に、新曲視唱・コルトレーンが苦手な生徒には共通点がある、そこに焦点を当て、共通する問題となる要素を指導することにより改善が見られた。 教科・科目等の横断的学習は、生徒達に新たな幅広い学びを理解させることに効果的である。 例えば、普通教科の『英語』の授業で『環境問題』『社会問題』『経済問題』などを、『英語を学ぶ』は当然で、いまや『英語で何を学ぶか』に変化し、グローバル教育の一つと見	・『楽典』・『聴音』・『新曲視唱』・『コルトレーン』の学習においては、授業で学んだ内容が各個人の練習量によって基礎力の変化が把握できる。『新曲視唱』・『コルトレーン』が苦手な生徒は同一生徒である傾向があり、その生徒達には、新曲視唱、コルトレーンそれぞれの授業担当者がどのような部分で苦手化なのかを調査し、その指導対策を二人の担当者が検討し、分かった点をそれぞれの担当者が科目の特性を踏まえ指導していく事とする。『楽典』の指導に於いては、理解が深い項目に関しては、その項目を時間をかけて、様々な例を取り上げ、段階を積み重ねて指導をしつつ、各段階ごとで理解度を確認しながら、次の段階へと進めていく事とする。やはり、音楽全般の学習に必要な不可欠な科目のため、地道な指導の必要性がある。	・『聴音』・『新曲視唱』・『コルトレーン』に於いては、指導と生徒のその学習の現状は、生徒個々の都合に違いはあるものの成果は認められた。『楽典』に於いては、理論的に組み立てて理解を積み上げていくという科目の特性があるため、生徒は反復学習によって楽典の知識は増えていくもの、それを応用して次にすすむ思考力・判断力が必要とされる領域では、『基礎学力(特に、数学的思考)』がどれほど定着しているのかに起因する状況が指導する側であり、普通教科(数学)との関連性も考慮し、更なる工夫をした指導が検討する必要がある。 来年度は全学年年新指導要領に基づき、新カリキュラムによる指導が実地化されるため、該指導方針、指導内容、その学習効果等をPDCAによって、生徒の学習状況、指導内容のレベル・指導方法を調整して、段階を踏んで『観点別評価』により、『新しい学力観』による評価へと結び付けられることを目標とする。	A	・音楽の基礎力の一つである、『楽典』の学習内容の定着・充実はまだ工夫する必要がある。2年生、3年生の『音楽理論』の授業の一部で、継続して指導していくこととする。 高大連携接続の方針から高校での学習から大学進学後の学習がより円滑に継続できるよう、再度生徒の学習状況の推移を検証していく必要がある。 現在の学習指導に於いては、学習指導要領の移行期であるため、今後の学習の方向として、③の主体的に学習に取り組む態度の育成の要素を普通科目のみならず音楽科目にも取り入れてみることも検討していくとする。 但し、音楽科に於ける、最重要科目である『専攻実技の評価』に関しては、『試験での各生徒の専攻実技の演奏スキル、表現力』が、その生徒の評価の全てであるという考え方が、『音楽という特性』と考えられ、『観点別評価』の観点から、適切な評価が行えるようにしていきたい。 ・新学習指導要領に基づき、必修の『普通教科・科目』の履修・修得は、音楽科の専門科目の履修・修得の前提となるので、それらの学習のペースとなる基礎学力の定着と充実を図るため、更なる創意工夫と学習時間の確保を検討する必要がある。
	○生徒指導に於いて、PDCAを基に年々変化する生徒の生活状況を把握しながら、それに対する方策を検討する必要がある。以下は、継続的な指導が必要な項目。 1.基礎的な生活習慣の確立の指導 ・挨拶礼法 ・綺麗な言葉遣い 2.授業規律の確立 ・時間厳守 ・下校時間の徹底 ・個人所有物の管理 ・携帯電話の規律ある使用方法 3.思いやりのある人格形成	1.基礎的な生活習慣の確立 ・挨拶礼法→生徒からの自主的な習慣としてはまだ確立されて状況である。基本的な生活習慣として自立し更に継続した指導を図る。 ・綺麗な言葉遣い→ホームルーム、全校集会等における指導と共に、日常の対教員、対生徒に対して不適切な言葉遣いがあった場合は、その都度その都度指導をし、改めて正しい地道な指導の継続が基本的な生活習慣として定着させる方策として、教員全体が同一歩調を取り組んでいく事とする。 2.授業規律の確立 ・時間厳守の指導は『全学年・全員の遅刻0』を目標とした。 ・下校時間については、5時完全下校を出来、基本的な学校の生活習慣の確立が見られる。今後も継続して指導に取り組む。 ・個人所有物の自己管理に於いて→生徒の個人所有物の『置き忘れ』『紛失』が目立つ現状がある。生徒の机の中・机上・個人ロッカーの整理整頓が出来ていない状況が大きな課題と見受けられる。 ・本校での携帯電話の指導：規律ある携帯電話の使用の指導をHRや全体集会で指導しているものの、完全には徹底できていない。また、メール、ライン等の不適切な使用による生徒間のトラブルは減少しているが、継続的な指導は必要である。	・1『下校時間の徹底』は昨年度からの指導課題でもあり、ほぼ徹底できてきた。これは、継続した指導により『規律ある習慣』の確立が図られた。下校時間の厳守・徹底は生徒の安全・安心を確保するために、必要不可欠な課題であった。 2個人所有物の自己管理の徹底を図るために、毎日放課後の校内巡視の際、HRの生徒の机の上の整理整頓の状況をチェックする必要があった。 3今年度、生徒の安全、保護者の安心を学校として確立する為に、川越警察生活安全課の協力により『防犯講話』『薬物乱用防止教室』を計画し生徒への注意喚起させていくことを計画した。	・1『下校時間の徹底』生徒指導主任、担任、直任教員との連携で毎日確認して下校時間をした結果ほぼ徹底できた。ただ、本校は音楽科であり、実技レッスンが時として下校時間後に終了する場合もあり指導の難しさもあった。 2『個人所有物の自己管理』担任が毎日指導と運動させて指導した結果として、改善が徐々に認められた。しかし、教室内の整理整頓においては、生徒個人の認識に温度差があり日々改善に苦慮していた。 3川越警察・生活安全課の金子信人氏による、『防犯講話』『薬物乱用防止教室』での具体例を挙げての講話は、登下校時の安全確保、又、薬物の危険性に対して、生徒達に注意喚起させた。川越警察・生活安全課による講話は今後も継続していくこととする。	・1基本的な生活習慣の中で『下校時間の厳守』には学校として総力を挙げ、基本的な学校生活の規律の一つとして取り組んできた。新型コロナウイルス感染症の対策の一つとして、通学電車が空回りしない時間帯での下校を促していた。 2生徒個人の机の上の『個人所有物の自己管理』については、毎日放課後、担任による整理整頓にも関わらず、徹底させるにはまだ課題が残った。 3『防犯講話』『薬物乱用防止教室』は最近マスコで時々取り上げられる事件や事故を回避するの注意喚起に役立っている。更に、近年まだまだ問題を引き起こしている『携帯電話の安全な使い方』については、これからも継続して指導していくものとした。	B	・1『時間厳守』これからの実社会におけるキャリア教育の根幹となる部分で、『基本的な生活習慣の確立の最重要課題』の一つとなり、継続して根柢より指導していくことが不可欠である。 2『教室内の整理整頓』クラス内の『学習環境』に影響が大きく、来年度も継続指導の必要性が認められる。 3『携帯電話の指導』『携帯電話安全教室』の開催を計画。SNSの使い方が日々変化している現状の中で、生徒間の誹謗・中傷の原因となる可能性が大きく、生徒の安全・安心な学校生活を確保するため、更なる細部に渡る指導の必要性がある。
	○高大連携接続と7年間の音楽を核とした一貫教育システムの実施により、音楽芸術の探究を目指す。附属高校生に系列大学の『具体的な教育内容とその目的』と『大学卒業後のキャリア支援の方策と現状』を入試広報センターとの連携を進めていく。	・高大連携接続(音楽を通じた7年間の一貫教育)の教育指導計画とその具体例を、今年度は『附属高校生とその保護者(1～3年)』に焦点を合わせた『プログラム』を広報入試センターが大学と高校とで内容、企画の開催時期を協議し、『本学園』における音楽を軸にした高大連携接続教育の実際』を附属高校生と保護者に提示することとした。	・『本学園』における音楽を軸にした高大連携接続教育の実際』(附属高校生とその保護者(1～3年)を対象とした大学紹介の企画)は、『スペシャルオープンキャンパス』という名称で、5月23日(日)に開催することになった。内容は、①大学の各専攻の紹介、②オープンアデーの短期留学研修の具体的な説明、③クイズコンテスト、④キャリア支援センター(キャリア支援教育と卒業生の具体的な就職状況)とする。	・『スペシャルオープンキャンパス』5月8日(日)開催 ①3学年の生徒、保護者の参加は勿論、1、2年生の生徒、保護者の参加も多く、高校卒業後の進路、更に、大学卒業後のキャリアとの結びつきも具体的に卒業生から直接話を聞ける場面も多かった。 ②附属高校生には大学進学の際の専攻の検討と大学卒業後の進路を幅広く視点で考えることができる良い機会となった。大学に於ける、各専攻での具体的な教育内容を実際に大学教員から指導を受けることにより、その内容・目的を深く理解できたのは勿論、進路選択にとても効果的であった。 ③保護者にとって、音大卒業後、学生がどのように社会と関わっていく可能性があるか、キャリアの具体的な説明は説得力があった。	・今までの『大学紹介』体験授業が大学・入試広報センターより一方的に生徒と保護者に提供する傾向があった。 今回の『スペシャルオープンキャンパス』(5月8日(日)開催)では、事前にその内容の明確な目的、具体的な内容の詳細、キャリア教育についての現状の説明など、生徒、保護者の目線で見立てられている内容であった。昨年度より、附属高校生とその保護者にとっては生徒の将来を考える良い機会となった。講座によっては、各専攻の現役の学生から、それぞれの専攻の内容と学生の感想の話も聞くこともでき、将来のキャリアとの結び付けを検討しつつの生徒本人にとってより進路決定が可能となった。	A	・大学教育全体の中での『音楽大学』の使命は、それぞれの大学の教育方針の基づくものである。本音楽大学だからこその可能である教育の核となる部分～客観的に、『音楽教育、音楽芸術』に向けての本音楽大学としての探究の方向性を附属高校生が認識できるように、更に創意工夫を凝らした来年度の『スペシャルオープンキャンパス』の開催を、大学、広報入試センターと検討していくこととする。
○『音楽芸術への実践的な取り組み』 ・学内演奏活動 ・学外の演奏会活動 『秩父晩鐘』(オペラ彩) (12月17日(土)、18日(日))・サンアゼリア	・新入生歓迎演奏会(4月19日) 東邦第二コンサート(6月21日) 合唱コンクール(6月25日) ・定期演奏家(リロの部)(6月25日) 東邦ミュージックフェスティバル(10月8日、9日) 定期演奏会・ウインドオーケストラ(ウエスト川越)(11月23日) 定期演奏会(合唱の部)(12月4日) 定期演奏会(オーケストラの部)(11月29日) 以上が、今年度開催予定の演奏会だが、新型コロナウイルス感染症の拡大の状況により、安全・安心を第一に適宜検討の後、開催を決定する。	・学内外演奏会に出演する候補者については開催を前日に選出していく。オペラ彩『秩父晩鐘』の練習は、例年、8月の土曜日、日曜日を中心に稽古が始まり、全体の稽古以外に第二高校の専任教諭が放課後等、学内で合唱(基礎練習)の指導をし、それを全体練習に生かせるようになっている。(練習開始・未定)	・新入生歓迎演奏会(4月20日) 東邦第二コンサート(6月6日) 合唱コンクール(6月19日) 定期演奏家(リロの部)(7月11日) 東邦ミュージックフェスティバル(10月10日)までは、開催実施済みの演奏会と現時点で、これから開催が決定している演奏会である。 オペラ『秩父晩鐘』の公開はまだ検討中であり、高校生の合唱練習も開始されていない。	・定期演奏会・ウインドオーケストラ(ウエスト川越)(11月12日)定期演奏会(合唱の部)(11月27日)定期演奏会(オーケストラの部)(12月4日)以上の演奏会は、新型コロナウイルス感染症対策を文科省のガイドラインを遵守し開催することに決定した。オペラ『秩父晩鐘』の開催が決定する。生徒は専攻専攻生を中心とした13名が合唱に参加することが決定。早速、計画も決まり、強行軍のスケジュールであるものの参加する生徒たちには意欲的に取り組む姿勢が見える。	・今年度は、予定していた、学内外での演奏活動は新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、全て開催できたことは生徒たちの士気を高めていた。オペラ『秩父晩鐘』も開催決定までに時間がかり準備に苦戦したものの、オペラ全体として、本校生徒の合唱も準備が間に合い、オケ合わせ、立ち稽古と順調に進み、本番2日間とも多くの観客が来場し成功裡に終わった。舞台芸術は、音楽科の生徒達にはこの上ない魅力であり、日常の学習では味わえない貴重な体験を得られるチャンスである。他の学校行事とのバランスを考慮しながら前向きに生徒の参加を検討していくこととする。来年度は、『マクベス』の公演が決定している。		
○ボランティア活動とその具体化について 新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度もその実施に関しては未定の状態である。	・今年度のボランティア演奏会の実施に関して、南古谷病院でのミニコンサート【未定】東部ふれあいセンターでのミニコンサート【未定】 帯津三敬病院でのミニコンサート【未定】(新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて、今後のボランティア活動の実施に関しては慎重な検討が必要とされる)	・新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しつつ、ボランティア演奏会の実施の可能性を鑑みて計画を作成しておいた。演奏形態・演奏曲目・演奏者の選考は、具体的に演奏会の見通しがついた段階で、早めに検討し諸準備を進めることとした。	・今後、生徒達の日常の学校生活の中で、『ボランティア活動』の位置づけとは何か、また、その活動の具体化と範囲を再検討することとする。(生徒会を中心)	・新型コロナウイルス感染症の影響を回避するため今年度の下記ボランティア演奏会の実施は全て中止が決定した。南古谷病院でのミニコンサート東部ふれあいセンターでのミニコンサート 帯津三敬病院でのミニコンサート	・来年度も新型コロナウイルス感染症の影響が懸念される面から、ボランティア活動は『演奏会』のみに限定せず、様々な形態の活動を検討し、地域貢献への積極的かつ意欲的な活動となるように努力していく。		
○地域との交流と連携の大切さを生徒たちに認識させ、その具体的方策を検討する。	・南古谷ウインドオーケストラの活動：通常は、毎週土曜日午後、近隣の中学生、高校生、一般社会人と連携のウインドオーケストラ有志がメンバーとして参加して、地域吹奏楽団体として練習している。(新型コロナウイルス感染症からの影響を回避するため当面活動休止) 南古谷ニューイヤーコンサート(南古谷地区の小・中・高等学校、また地域住民との活動)：1月の第一週の日曜日に地域連携活動の一貫として開催している。新型コロナウイルス感染症からの影響を鑑みて、開催を検討していく。	・南古谷ウインドオーケストラの活動。【当面休止】ニューイヤーコンサートin南古谷【中止予定】(第二高校ウインドオーケストラと本校の『合唱団』→本校の教育課程に位置付けられている～が授業の発表演奏として参加予定だった)	・毎週土曜日午後の東邦音楽大学での地域の中学生・高校生・一般社会人から構成されている、南古谷ウインドオーケストラの練習(演奏)は『地域の音楽芸術に対する意識の向上』に長年に渡って貢献している。【当面休止】	・定例化しているニューイヤーコンサートin南古谷は、近年は地域からの参加団体も増え、更なる充実が図られている。同時に、これに参加する本校生徒たちにも、地域貢献の意義をより一層理解させる良い機会となっている。【今年度は現時点では未定。しかし、状況にもよるが、開催に向けての前向きな準備は検討しておくこととする。】	・幸いにも、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった『ニューイヤーコンサートin南古谷』は、規模を縮小しながらも、開催できた。『地域に根ざした音楽への意識の向上』を目指した活動であるニューイヤーコンサートin南古谷の開催できるよう計画を立てて進めていく事とする。		
○埼玉県近郊の『音楽系高等学校との合同演奏会』の実施。 各学校の教育方針に基づいた専攻実技の指導を基に、生徒たちが一人ひとりが楽曲を解釈し、それを演奏を通して発表する『演奏会』は、ともに音楽を学ぶのが高校生達にとって、良い研鑽の場となっている。	・音楽教育の活性化を図る為に近隣の音楽系高等学校が参加し、『第12回北関東甲信越音楽系高等学校合同演奏会』は6月11日(土)開催予定となっている。(東邦第二高等学校主催)ただ、新型コロナウイルス感染症からの影響を鑑みて、その開催には慎重に検討する。	・『第12回北関東甲信越音楽系高等学校演奏会』：6月15日土曜日実施開催に当たって新型コロナウイルス感染症に対する万全の対策を取って実施した。①演奏会場内の換気(30分毎)、サーキュレーター使用 ②演奏者の周囲：アクリル板、シールド使用 ③演奏者間のデスタンスを確保 ④入場者の制限 ⑤入場者は手の消毒、靴底の消毒と検温→文科省のガイドラインに準拠	・『第12回北関東甲信越音楽系高等学校演奏会』本校音楽ホールで各校の代表演奏者による演奏会を新型コロナウイルス感染症の感染を防ぐことなく無事終了できた。この演奏会の意義と参加校の拡大、演奏形態の見直しなどを今後も継続して検討していくこととした。	・演奏会を通して、各学校の演奏した生徒達は、それぞれが日々培った演奏テクニック・表現力などを振り回してみる良い機会となった。来年度は、『音楽系高等学校間の親睦を図る』という基本方針のむにも、より良い演奏会の形態と幅広い参加校の拡大を目標に開催の準備を進めていくこととする。	・『第13回北関東甲信越音楽系高等学校演奏会』は来年度6月11日に開催する予定。学校間の交流を図りつつ、生徒達の演奏技術と音楽性の向上を目指し、更に良い演奏会を計画していくこととする。		

学校関係者 評価
学校関係者からの意見・要望・評価等
○高い評価を受けている項目 1.学校経営全般：学校は、大学での教育を視野に入れながら、音楽芸術探究を目標とした、一貫教育の推進に取り組んでいる。実践に取り組んでいる。同時に、教育方針に基づいたOne to Oneの教育を実施している。 2.教育課程全般：実技の指導に於いて、計画的に、個々の特性・能力に応じたきめ細かな指導が実施されている。更に、クラスコンサート、東邦第二コンサートでは、技能のみならず、一人ひとりの興味・関心に応じ、主体的な取り組みができ、自主的な学びの機会が得られる。 3.生徒指導全般：学校は生徒理解に努め、適宜、適切に教育相談を行っている。
○学校として次年度に向けた対応策 1.教育活動をH P、S N S等で積極的に公開していく。 2.音楽教科、普通教科をバランス良く習得できるようにしていく。 3.行事予定表の更新の検討。 ○改善要望項目 1.学校は、教育活動を参観、通信、H P等で積極的に公開して欲しい。 2.音楽教科、普通教科をバランス良く習得できるようにして欲しい。 3.演奏活動、学校行事は適切な時期に適切な内容で実施して欲しい。